

第21回新潟乳癌研究会

日 時 平成12年9月2日(土)
PM 3:00~
会 場 ホテルイタリア軒
3F サンマルコ

I. 一 般 演 題

1) 乳癌手術における各種再建手術の検討

三浦 宏二 (がん検診クリニック三浦外科)
川合 千尋 (同消化器科・外科川合クリニック)

我々は乳癌手術において、患者の QOL と局所の根治性を両立させるために、広背筋および腹直筋を用いた再建手術を積極的に行っているので報告する。

広背筋による再建は、乳腺全切除＋一期的乳房再建が124例、Quadrantectomy＋一期的乳房再建が24例、二期的乳房再建が3例である。乳腺全切除＋一期的乳房再建では、最初から半則臥位にすることにより体位交換の必要がなく、平均手術時間は2時間20分程度である。また、5年以上の長期例でも筋の著明な萎縮は認められず、ほとんどの症例で左右の対称性が保たれて患者の満足度も高い。また Quadrantectomy＋一期的乳房再建の手術時間は1時間15分程度で美容上の効果は非常に高く、術後に照射を行っても筋が萎縮することはない。手術中に迅速病理検査が困難な施設においても癌遺残の危険を犯さずに安全に行い得る手術法と考えられる。二期的乳房再建は、非定型的切除から数年経った症例に行っているが、平均手術時間は6時間30分と長い。また、後日乳頭再建も必要になることから患者の負担も大きく、乳房再建はなるべく乳頭を温存し一期的に行った方が望ましいと考えられる。腹直筋は、広背筋に比較して大量の皮膚が得られることから進行再発乳癌における切除後の胸壁の欠損部を被覆するために用いている。手術時間は2時間30分程度であり、合併症もほとんどなく安全な手術と考えられる。

広背筋は一期的乳房再建や乳房整容に、腹直筋は広範な組織欠損の被覆に有効と考えられるが、どの再建術も一般外科医に十分可能かつ安全な手術法であり、これを積極的に行うことにより、根治性を損なうことなく患者の QOL の改善が期待できると考えられる。

2) 新潟県におけるマンモグラフィを導入した乳がん検診の体制づくりについて(第2報)
姉崎 静記(新潟県村上保健所)

昭和63年から平成10年までの11年間における視触診による新潟県の乳がん検診を要精検率・がん発見率・陽性反応の中度の3つの指標で評価した。

がん発見率には大きな変化は見られなかったが、要精検率は検診開始の3年目からほぼ一定であった。陽性反応の中度は後半期から上昇の傾向にあり、最近では全国平均を上回っている。

検診方式別を集団方式と施設検診に分けて評価したところ、3つの指標はいずれも施設検診の成績が良好であった。

11年間の検診成績は、後半期ではほぼ固定していて、新しい検診方式の導入が求められます。

新潟県では、本年11月下旬にマンモグラフィを搭載した検診車が完成し、12月からモデル地区を選定して稼働の予定である。

このために現在までに県の委員会で決定したマンモグラフィを併用した乳がん検診の要領について説明した。

しかし、この検診は従来のがん検診と異なり、検診に使用する機器の使用基準の設定、診療放射線技師と読影医師が、講習会でしかるべき評価を得た者の参加が位置づけられています。

即ち、検診マンモグラフィの撮影技師と読影医師は、マンモグラフィ検診精度管理中央委員会(精中委)が主催する講習会の試験で一定以上の評価区分を得た者が当たることになります。

今回は、マンモグラフィ読影医師の養成研修会の詳細と県内における養成の現状、マンモグラフィ搭載車を使用した検診車の具体的な運用方法について解説した。

現在、県内の視触診法による乳がん検診で発見される乳がんの70%以上は50歳以上であり、マンモグラフィ併用検診は50歳以上の女性を対象としているので、新しい検診方式による良好な成果が今から期待されます。